

たつの市定例記者会見資料	
発表年月日	令和5年6月5日（月）
担当課	教育事業部歴史文化財課
電話	0791-75-5450

報道機関各位

埋蔵文化財センターロビー展 「収蔵庫の隠れたおたから」を実施

たつの市が所蔵している埋蔵文化財のなかには、優品でありながら特別展・企画展に組み込むことが難しいものや、新たに判明した知見等を市民に紹介することがふさわしいものが存在します。これらを有効に活用するため、埋蔵文化財センターロビーにて展示を行うものです。

今回は、2期に分け、加古川市行者塚古墳出土短甲形埴輪と誉田町内山出土弥生土器を展示します。

記

- 1 展示名称 「収蔵庫の隠れたおたから」
- 2 開催場所 たつの市立埋蔵文化財センター ロビー
- 3 開催期間 第1期 令和5年6月26日（月）～7月24日（月）
第2期 令和5年7月26日（水）～8月28日（月）
- 4 展示内容 第1期 加古川市行者塚古墳出土短甲形埴輪 2点
第2期 誉田町内山出土弥生土器 1点
- 5 観覧料 無料
- 6 主催 たつの市教育委員会

第1期 加古川市行者塚古墳出土短甲形埴輪

1 展示資料の概要

加古川市行者塚古墳から出土したと伝えられる短甲（よろい）胴部の破片1点（高さ約16cm、幅約14cm）と短甲に伴う草摺（くさずり：脚部保護のための防具）の破片（高さ約16cm、幅36cm）。使用された粘土や焼き上がりから同一個体と推定される。時期は古墳時代中期（約1,600年前）である。

2 来歴

令和4年度たつの市立埋蔵文化財センター特別展準備のため、担当者が収蔵庫内の資料をチェック中、市立埋文センターで保管していた「出土地不明・寄贈者不明」の埴輪が『法花堂2号墳』（1986年香寺町刊行）で「行者塚出土の埴輪」として掲載されていることを確認。

行者塚古墳からは発掘調査によって短甲形埴輪が出土しているため、資料を所蔵する加古川市教育委員会に現物を持参し確認したところ、出土品と同一個体であることが判明した。

3 資料の評価

短甲形埴輪は播磨では事例がごく少ない。また、採集品と出土品とが同一個体と確認されることは、埴輪に限らず考古資料全般において極めてまれである。

4 本資料選定の理由

本展示後（令和5年8月以降）に加古川市教育委員会へ資料を移管する。短甲形埴輪は高さ1m以上もある大形品で移動が難しいため、たつの市では最初で最後の披露となる可能性も高い。

また、採集品と出土品とが一致するという極めてまれな事例であり、話題性の高い資料である。

第2期 誉田町内山出土弥生土器

1 展示資料の概要

高さ約30 cm、直径約25 cm。小さな底部と中央付近で最大径となる胴部を有し、頸部はほぼ直立する。表面は器面調整の跡は残っているが模様はない。以上の特徴から、時期は弥生時代後期後半（約1,900年前）である。

2 来歴

たつの市を含む西播磨の考古学研究をけん引した故加藤史郎氏によって誉田町内山の山中で発見・採集された資料である。『龍野市史』第4巻（1979年刊行）で実測図が公表されている。

3 資料の評価

たつの市内では、現在でも、弥生時代後期に属する土器は少ない。こうしたなか、半世紀近く前（1979（昭和59）年）に公表された学史的に重要な資料である。

4 本資料選定の理由

令和4年度、埋蔵文化財センターにて破片の接合ならびに修復作業を行い、従来の復元で生じていたゆがみや接合誤りを修正した。なお、本土器は今回の展示が初の公開となる。

展示対象の写真



行者塚古墳出土短甲形埴輪（第1期展示）
上が短甲、下が草摺



誉田町内山出土弥生土器（第2期展示）

